

「なんと実話！」

吉岡宿(大和町)が舞台の映画

「殿、利息でござる！」(二〇一六年公開)

千両(3億円)集めてピンボー脱出!!

藩の重い年貢により、夜逃げが相次ぐ宿場町・吉岡宿に住む穀田屋十三郎は、知恵者の菅原屋篤平治から町を救う計画を聞く。

それは藩に大金を貸付け、利息を巻き上げる

「庶民がお上から年貢を取り戻す」逆転の発想だった!

江戸時代、実在した人々の奇跡と感動の歴史秘話を

中村義洋監督がユーモアたっぷりに映画化。

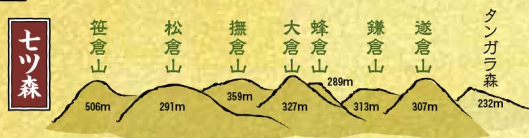
原作は「武士の家計簿」などの著作で知られ、平成の司馬遼太郎との呼び声も高い磯田道史の「無私の日本人」(文春文庫刊)の一篇「穀田屋十三郎」。



奥州街道吉岡宿への案内



- 東北新幹線** 東京駅→仙台駅(約1時間20分) 仙台から車で約40分 盛岡駅→古川駅(約1時間) 古川から車で約30分
- 東北自動車道** 川口JCT→大和IC(357.1km・約4時間35分) 盛岡IC→大和IC(155km・約1時間50分)
- 飛行機** 仙台空港から車で約50分



大和町商工観光課

〒981-3680 宮城県黒川郡大和町吉岡まほろば一丁目1番地の1
☎022-345-1184
<https://www.town.taiwa.miyagi.jp>



アサヒナサプロ公式

大和町観光物産協会 (吉岡宿本陣案内所)

〒981-3621 宮城県黒川郡大和町吉岡字上町31-1
☎022-345-7501



大和町観光物産協会 公式

吉岡宿めぐり



吉岡宿ガイドキャラクター アサヒナ十三郎

殿、利息でござる!

舞台の地を訪ねて

江戸時代の仙台藩吉岡宿に 思いを馳せながら

仙台市中心部から北へ約二十キロ、現在の和町吉岡に、今から二百五十年ほど前の江戸時代、江戸と東北諸藩を結ぶ奥州街道と出羽街道の宿場町・吉岡宿があり、人々は、街道を行き来する物資を藩の命令で運ばなければならぬ伝馬役が課されていました。しかし、この伝馬役には藩からの助成がなく、宿場は次第に困窮し家を捨て逃亡する人も増えてきました。

そのような中、町の将来を心配し、人々を苦しい生活から救う吉岡宿を建て直したいと考えた穀田屋十三郎・菅原屋篤平治ら九名の篤志家たちが、私財を投げ打ち一家離散も覚悟の上で、千両を工面し仙台藩に預け入れ、その利息で吉岡宿を救った経緯が、龍泉院の住職を務めた「采洲瑞芝」により「國恩記」として記録されました。

この「國恩記」に記されている実話が、今般、歴史学者磯田道史氏の著書「無私の日本人」に、また映画「殿、利息でござる!」となって蘇りました。

当時の吉岡宿の街路は、幸運にも今にその姿をとどめております。九名の篤志家達の思いと、彼らと苦難を乗り越えた多くの人々に思いを馳せながら大和町吉岡宿めぐりをお楽しみください。

國恩記とは

江戸時代後期、吉岡で行われた窮民救済事業のおこり、組織・運営・実態などに関わる諸資料をまとめたもので、龍泉院八世采洲瑞芝禅師によって記されたもの。

九名の篤志家

- | | |
|---------|--------------|
| 穀田屋 十三郎 | 菅原屋 篤平治 |
| 千坂 仲内 | 穀田屋 十兵衛 |
| 遠藤 幾右衛門 | 浅野屋 基内(周右衛門) |
| 遠藤 寿内 | 穀田屋 善八 |
| 早坂屋 新四郎 | |

國恩記の筆者

采洲 瑞芝



吉岡宿本陣案内所



仙台藩 宮城県大和町 吉岡宿・城(館)跡めぐり

九品寺 くほんじ
浄土宗の寺で、元和2(1616)年に現在の鶴巢下草から当地へ移った。文化3(1806)年建立の山門前に南東の交差点近くから移された宝暦7(1757)年建立の追分石がある。

国恩記顕彰碑 こくおんきけんしょうひ
九品寺境内には、平成15(2003)年建立の国恩記顕彰碑と篤志家の法名碑があり、その間に菅原屋篤平治夫妻の墓がある。

高札場跡 こうさつばあと
幕府や大名が、法令などを記した板札である高札を掲示した場所の跡。

龍泉院 りゅうせんいん
曹洞宗の寺で、寛永5(1628)年に現在の鶴巢下草から当地へ移った。当寺八世の住職を務めた栄洲瑞芝が、「国恩記」を著しており、境内には歴代の住職とともに墓がある。



吉岡宿ガイドキャラクター アサヒナ十三郎



吉岡館跡 よしおかたてあと
寛文2(1662)年、奥山家が吉岡の領主となるのに伴い整備した居館の跡。宝暦7(1757)年、奥山家に代わって但木家が領主となって当館に移った。外周にあった堀は埋められたが、内側の土塁は西辺北部で見られる。この館の周囲から宿場町の間は家臣の屋敷地であった。

吉岡城跡 よしおかじょうあと
伊達政宗公の三男・宗清の居城の跡。元和2(1616)年に完成し、現在の鶴巢下草にあった居城から寺院等の施設も共に移った。隅櫓が建てられていたと見られる櫓台が二箇所残り、そこから北の「ひだまりの丘」付近が二の丸で、東側が一の丸と伝わる。南側の低地には堀があった。

本陣跡ほんじんあと
大名や幕府の役人などが宿泊や休憩に使った施設の跡。

天皇寺てんのうじ
臨済宗の寺で、元和2(1616)年に鶴巢下草から当地に移った。庫裡(町指定有形文化財)と山門は江戸時代からの建物。このほか境内には伊達政宗の三男宗清と、政宗の側室で宗清の養母となった飯坂の局の墓がある。

保福寺ほくふくじ
臨済宗の寺で、寛文5(1665)年に吉岡領主奥山常辰が建立し、山門は当時から伝わる。境内には、奥山家累代の墓や、後の吉岡領主となった但木家の成行(最後の領主)の墓と招魂碑がある。

吉岡八幡神社よしおかはちまんじんしゃ
伊達宗清が居城を吉岡に移したのに伴い、元和4(1618)年に現在地に移り、黒川郡の総鎮守社とされた。社殿は平成元年に再建されたもの。隨身門は、明和元(1764)年建立。



御案内・休憩処
吉岡宿本陣案内所
〒981-3621 宮城県黒川郡大和町吉岡字上町31-1
☎080-8236-2008
営業時間/ 9:30~16:00
休業日/ 火曜日・年始年末
※案内ガイドは事前予約が必要です。

歩いてくるりまちめぐり

- 十三郎コース (1時間)
- 殿様コース (3時間)

車でぐるり七ツ森へ 【自家用車・タクシー・レンタカー】

- 七ツ森コース (1日)

御宿泊処

- 1 ビジネスホテル山並 ☎022-345-3220
- 2 ホテルルートイン物産 ☎022-344-5711
- 3 遠藤旅館 ☎022-345-2020
- 4 大和パークホテル ☎022-345-6680

御菓子処

- 1 笠原餅店 ☎022-345-3209
- 2 梅香亭 ☎022-345-2807
- 3 菓匠ささか ☎022-345-2418
- 4 菓屋工房 シェフドリーム ☎022-347-2678
- 5 つつみ屋 吉岡店 ☎022-346-8830
- 6 蝶梅の咲く頃 ☎022-347-8510

御食事処

- 1 中華料理四川チャイナ ☎022-345-2267
- 2 喫茶いづみ ☎022-345-2303
- 3 山でら食堂 ☎022-345-2240
- 4 とんかつやぐら ☎022-345-4746
- 5 八幡はなぶさ ☎022-345-2532

御酒売処

- 1 (株)酒のやまや吉岡店 ☎022-347-1522
- 2 馬場商店 ☎022-345-2125
- 3 (有)浅多商店 ☎022-345-2222
- 4 酒の穀田屋 ☎022-345-2052
- 5 上州屋 ☎022-345-2066

【凡例】

- 寺院
- 病院
- 文学校
- 駐車場
- 神社
- 警察署
- 郵便局
- 篤志家の墓
- 銀行
- 消防署
- バス